

医療現場における多重課題シミュレーションの展開

～シミュレーション設計と看護実習を超えた応用の可能性～

京都光華女子大学
看護福祉リハビリテーション学部看護学科
岡本華枝

目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

今から30年前…。

経験を積めば何とかなる
——そう思っていました。

経験が増えれば、自然と教えることもできる
——そう信じていました。

ICU

外科・内科病棟

肝臓病センター

治験コーディネーター

療育医療センター

緩和ケア

東日本大震災救護班

ICLSインストラクター

ハンセン療養所

AHA BLSインストラクター

川崎医科大学総合医療センター
旧・川崎病院を退職する日の記念写真
～お世話になった人たちと～



経験がある＝教えられる、とは限らない

その道の経験があることと、
人に教える力があることは、
——まったくの別ものでした.....。

インストラクショナルデザイン（ID）と出会い、
学びを「設計」という視点が加わったとき——
学習者を支えるためのアプローチが変わりました。

そして、IDを基盤にした
GOLDメソッドとの出会いが、
私の看護教育に新しい道を開いてくれました。

今、私がここに立っている理由

- 長年、看護師として現場で患者さんと向き合ってきました
- 今は、看護教員として看護基礎教育の現場にいます

つなげたい想い

- 卒前教育と卒後教育の “ギャップ” を埋めたい
- 学びと実践の “距離” を近づけたい

ずっと持ち続けている変わらない願い

居場所は違っても、目指すものは同じ
患者さんのために
現場の看護を、もっと良くしたい

目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

臨床現場の新人看護師と看護基礎教育

看護師

臨床現場

複数の患者を受け持つ

優先順位を判断し多重課題を解決する能力



Aさん
症状の変化なし



Cさん
症状の変化なし



Dさんの様子は
変わらないので、
点滴中のBさんの
様子を見に行こう



Dさん
症状の変化なし

看護学生

看護実習

1人の患者を受け持つ

複数患者を受け持つ実習は限られる

実習指導は教員の裁量で統一していない



唯一の
複数患者受け持ち
統合実習

新人看護師の職場不適合や早期離職の要因
看護基礎教育終了時点の能力と
臨床現場で求められる能力とのギャップ

多重課題に対応する看護統合実習における事前・事後指導プログラムの開発

研究課題/領域番号	22K02872
研究種目	基盤研究(C)
配分区分	基金
応募区分	一般
審査区分	小区分09070:教育工学関連
研究機関	京都光華女子大学 (2023) 岐阜聖徳学園大学 (2022)
研究代表者	岡本 華枝 京都光華女子大学, 健康科学部, 准教授 (70648881)
研究分担者	鈴木 克明 武蔵野大学, グローバル学部, 教授 (90206467) 徳永 基与子 京都光華女子大学, 健康科学部, 教授 (20381709) 小笠原 秀人 千葉工業大学, 社会システム科学部, 教授 (30823851)
研究期間 (年度)	2022-04-01 – 2026-03-31
研究課題ステータス	交付 (2023年度)
配分額 *注記	4,160千円 (直接経費: 3,200千円、間接経費: 960千円) 2025年度: 910千円 (直接経費: 700千円、間接経費: 210千円) 2024年度: 1,170千円 (直接経費: 900千円、間接経費: 270千円) 2023年度: 780千円 (直接経費: 600千円、間接経費: 180千円) 2022年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円)

統合実習の開発と普及のためのロードマップ

フェーズ	目的	年度	活動	成果
スキーム	統合実習の現状把握と開発計画の立案	2021-2022	Web、文献調査による現状把握	統合実習における課題の明確化
			統合実習終了時点で求められる能力の定義	求められる能力の定義
			基本アイデアの評価（既存の教材を活用した統合実習の試行）	アイデアの妥当性評価
			活動計画の立案と活動予算の確保	科学研究費助成事業の獲得
システム	統合実習の設計・開発と評価	2023-2024	統合実習の設計・開発	統合実習で活用する教材やガイド
			開発した教材に基づく実施と評価	複数大学での適用とその評価
			統合実習の普及のための基盤構築	普及のための方針確定と実施計画策定
サービス	持続可能な運用体制と運用環境の構築	2024-2025	複数の看護系大学、医療機関での実施と評価	バリエーションへ対応する仕組みの構築
			普及・展開のためのインフラ環境の構築	利用者のためのWebサイトの構築
			実践ノウハウ共有のための活動	情報共有の実践と場の設定

第37回国際P2M学会研究発表大会(2024年4月)発表奨励賞 教育・人材育成分野
岡本華枝、徳永基与子、鈴木克明、小笠原 秀人「P2Mを用いた看護基礎教育における指導法開発ー統合実習における多重課題演習ー」、
国際P2M学会誌、Vol.19、No.1、国際P2M学会、2024

統合実習の課題と対策

	課題	対策
1	多重課題の <u>定義</u> が明記されておらず、複数の解釈も存在していた	多重課題の定義の明確化
2	多重課題における <u>看護実践能力の基準</u> が不明瞭なため、統合実習による学習効果が示せない	多重課題における看護実践能力の基準の明確化
3	多重課題に関する <u>授業や演習の細かい規定</u> はなく、各看護師養成機関に委ねられている	多重課題に対応できる能力を習得するための講義と演習の設計
4	多重課題に対応するための <u>教材や実施方法</u> は確立されていない	統合実習の全体像を明確にしたうえで、看護師養成機関で活用できる学習教材や支援サービスの提供

[看護基礎教育における統合実習の事前・事後指導プログラム開発の検討（その2）～養成機関のシラバスの現状と課題～](#)
徳永基与子, 岡本華枝, 小笠原秀人, 原田浩二, 左近香代子, 谷川裕子, 鈴木克明、第15回日本医療教授システム学会学術集会 2023年3月

目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

多重課題の定義の明確化

多重課題

2名以上の複数患者を受け持ち、患者に対して流動的に発生する出来事に対し、優先順位を決めて看護行為を行う必要がある場面

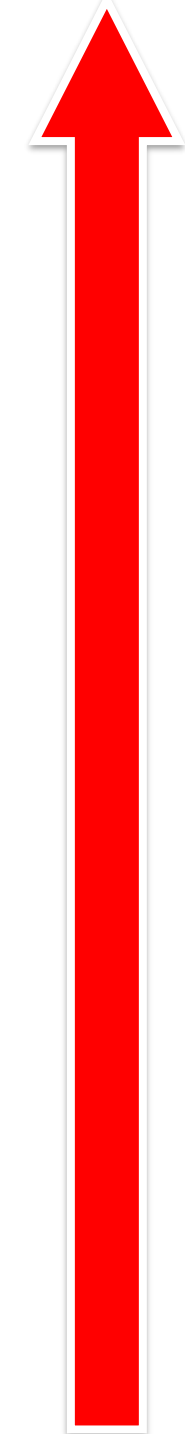
多重課題の**優先順位**を判断するための基本的な考え方

- 1) 「重症度」と「緊急性」
- 2) 時間管理（患者さんのタイムスケジュール）
- 3) その他（安全管理、応援要請・報告、他の患者さんへの配慮）

多重課題の対応に必要な技能

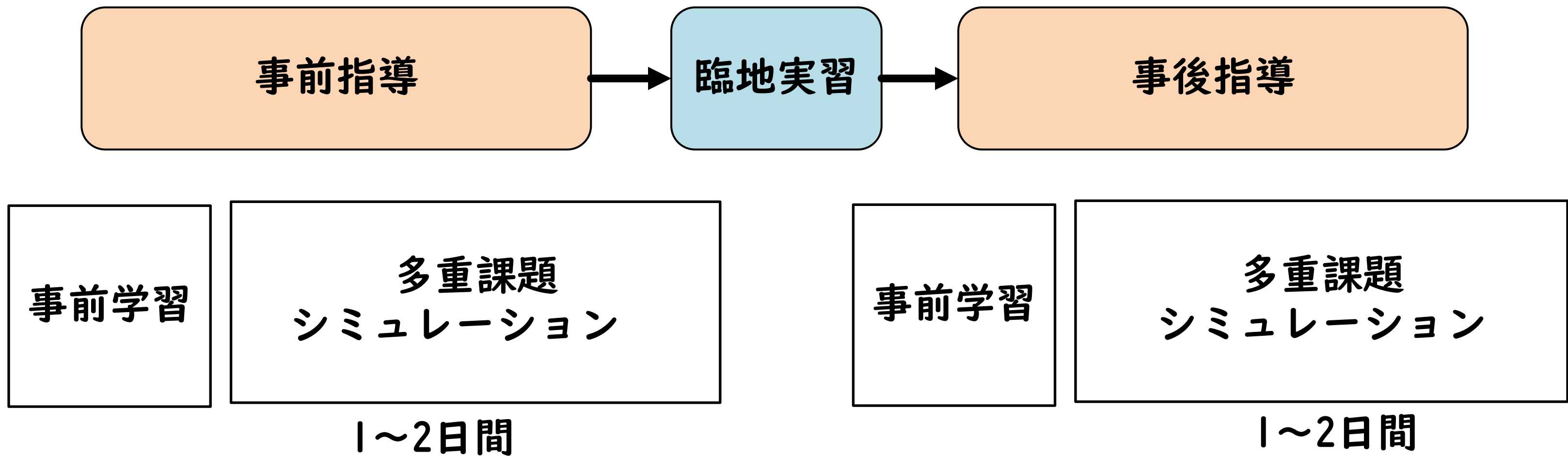
患者の急変リスクや今後起こりうる状況を予測する

多重課題シミュレーション到達目標



看護実践モデル		学びのポイント	到達目標
シーン6	振り返り (できたことを味わう、改善案)	⑦全体の振り返り	☐ 実践できたことを発言できる ☐ 次につなげる改善案を提案できる
シーン5	看護記録・報告 (SOAP・I-SBSR-C)	⑥円滑な協力依頼	☐ I-SBAR-Cを用いて報告できる
シーン4	選択した看護を実践 (プラン緑、黄、赤)	⑤冷静な対応 ④複数患者の安全確保	☐ 変化に合わせて優先順位を判断できる ☐ 目的のある観察・看護が実践できる
シーン3	患者に接する (初期評価・変化を判断)	③優先順位の判断	
シーン2	患者のところに行く (パット見判断、全体観察)		
シーン1	ナースステーションで頭を整える (予測・リハーサル)	②複数患者の段取り ①複数患者の状況把握	☐ Bプラン ^[1] の必要性が高い順に必要な看護を提案できる(目的のある観察を含む) ☐ 患者の起りそうな最初の変化を予測できる

[1] 事前に予測した状況の変化に対応するためのプラン



多重課題シミュレーションの特徴

- 学習者が患者役に“なりきる”

学習者の遭遇したことのある患者

状況を自分ごととして捉え、判断や行動をリアルに体験

- 患者物語（背景理解）を重視

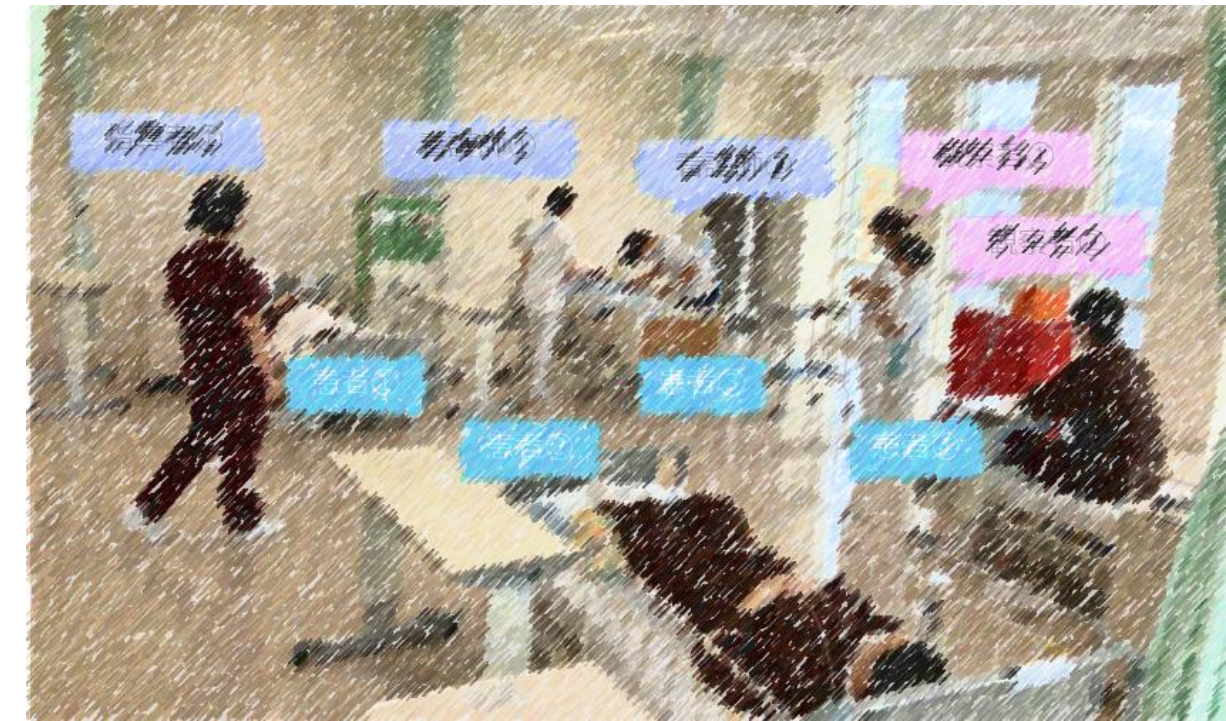
それぞれの患者のストーリーの中で、複数の課題が同時進行

- ライフヒストリー（生活背景）
- ファミリーヒストリー（家族背景）
- メディカルヒストリー（医療背景）

- 安全な環境での試行錯誤

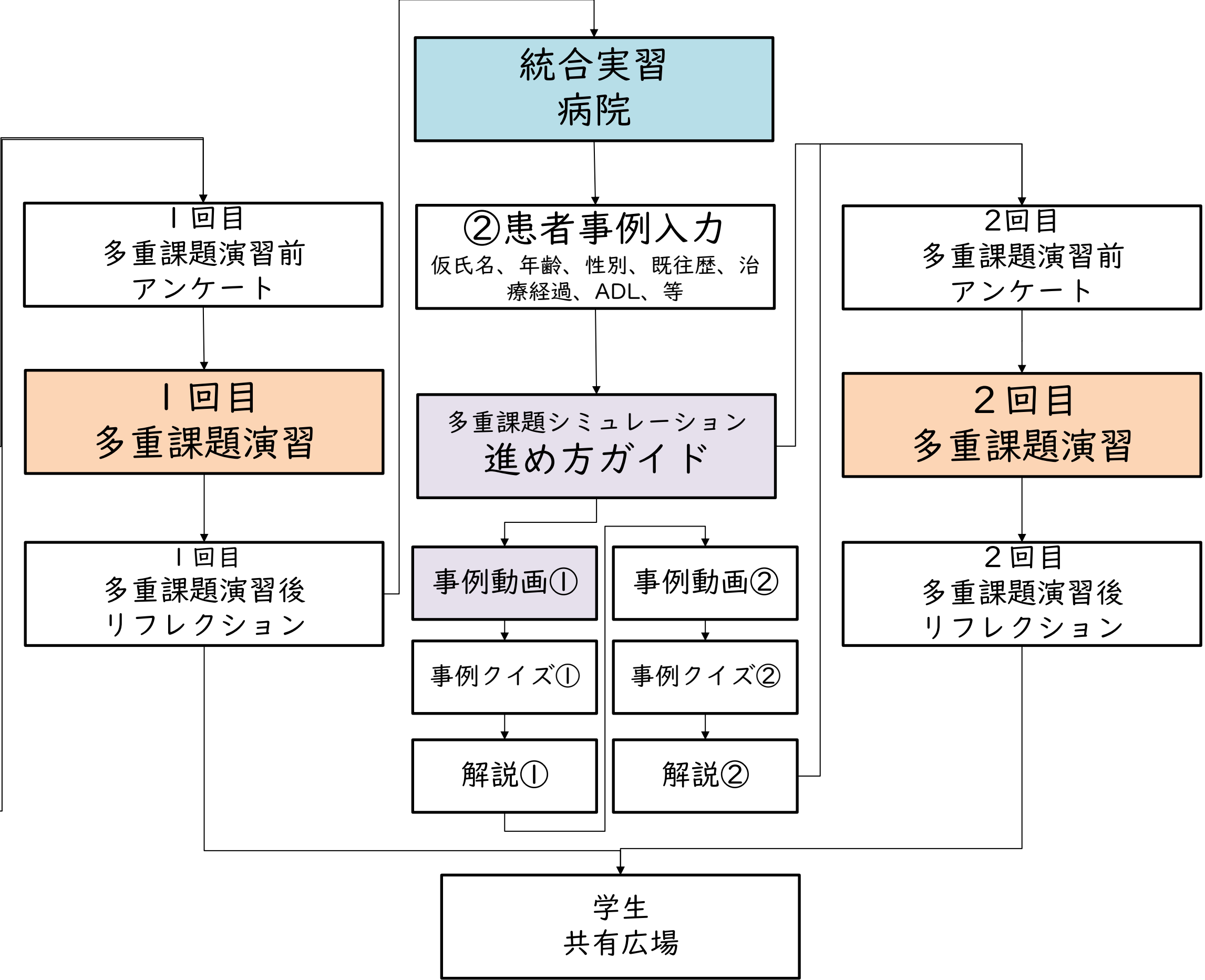
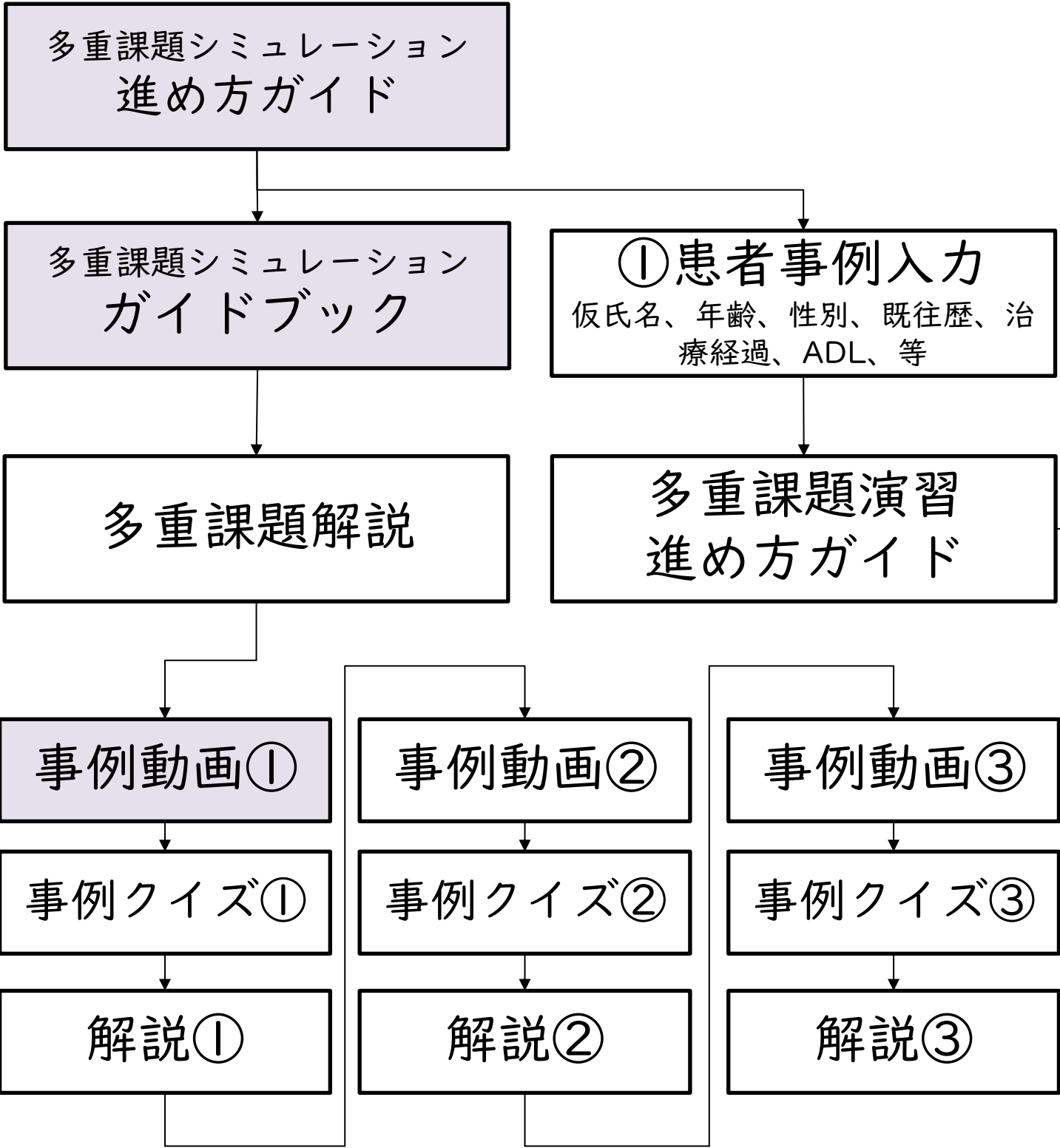
現場で求められる優先順位判断や
複数対応力を安全に練習できる

演習のイメージ



多重課題に対応できる能力を習得するための講義と演習の設計

多重課題シミュレーション（学校例）



目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

多重課題×看護教育 実践支援サイト

実習や現場で「考える力」を育てたいあなたへ

ー多重課題シミュレーションから始まる、新しい学びのデザインー

Bridging education and practice.

[Home](#)

[実践方法](#)

[研究と論文](#)

[活用事例](#)

[申込み](#)

多重課題×看護教育 実践支援サイト

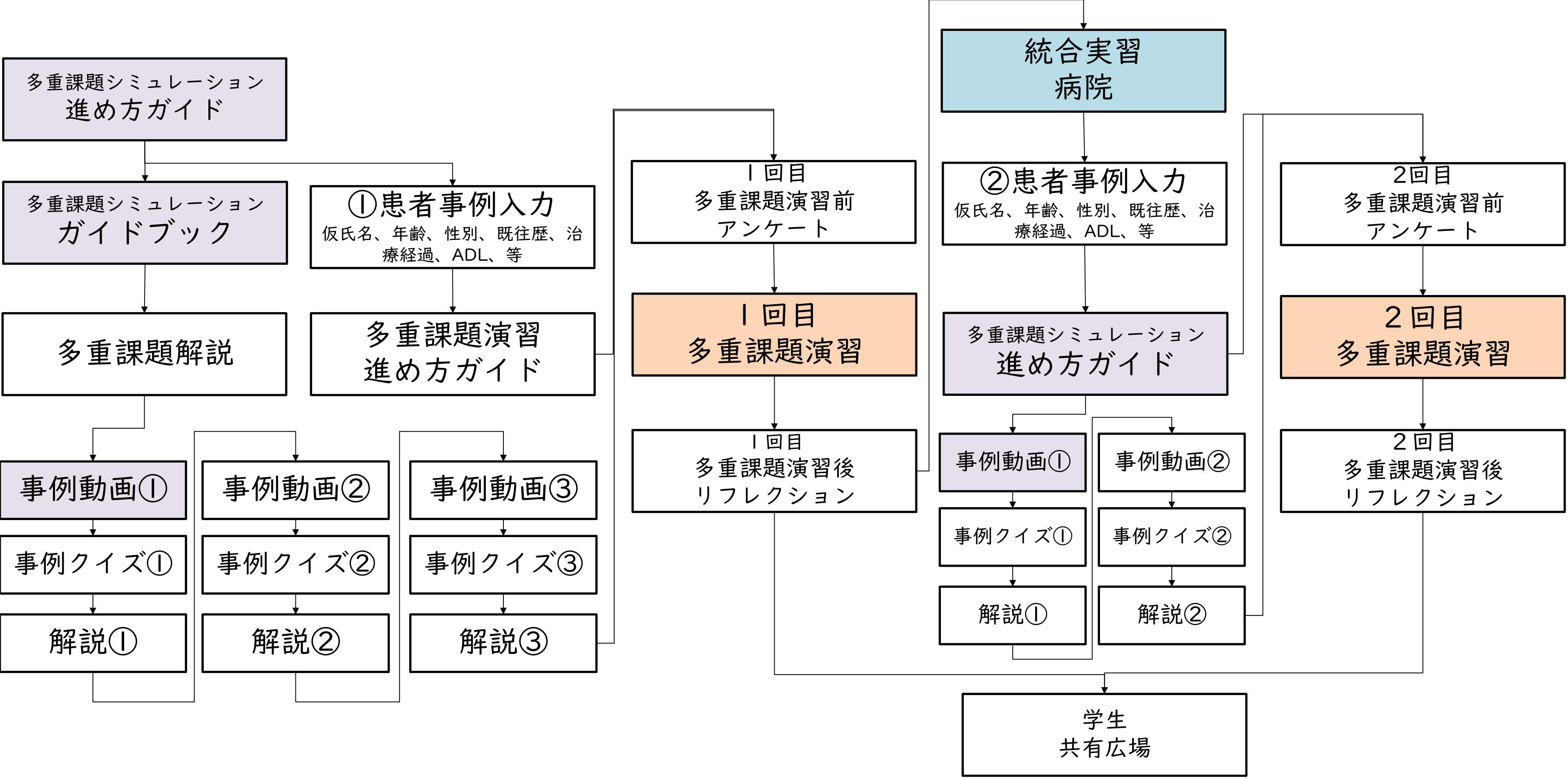
教育工学×看護教育のアプローチとGOLDメソッドを活用し、
現場で育つ“学び”をどう支えるかを探求

教材や支援は以下にすぐ活用可能

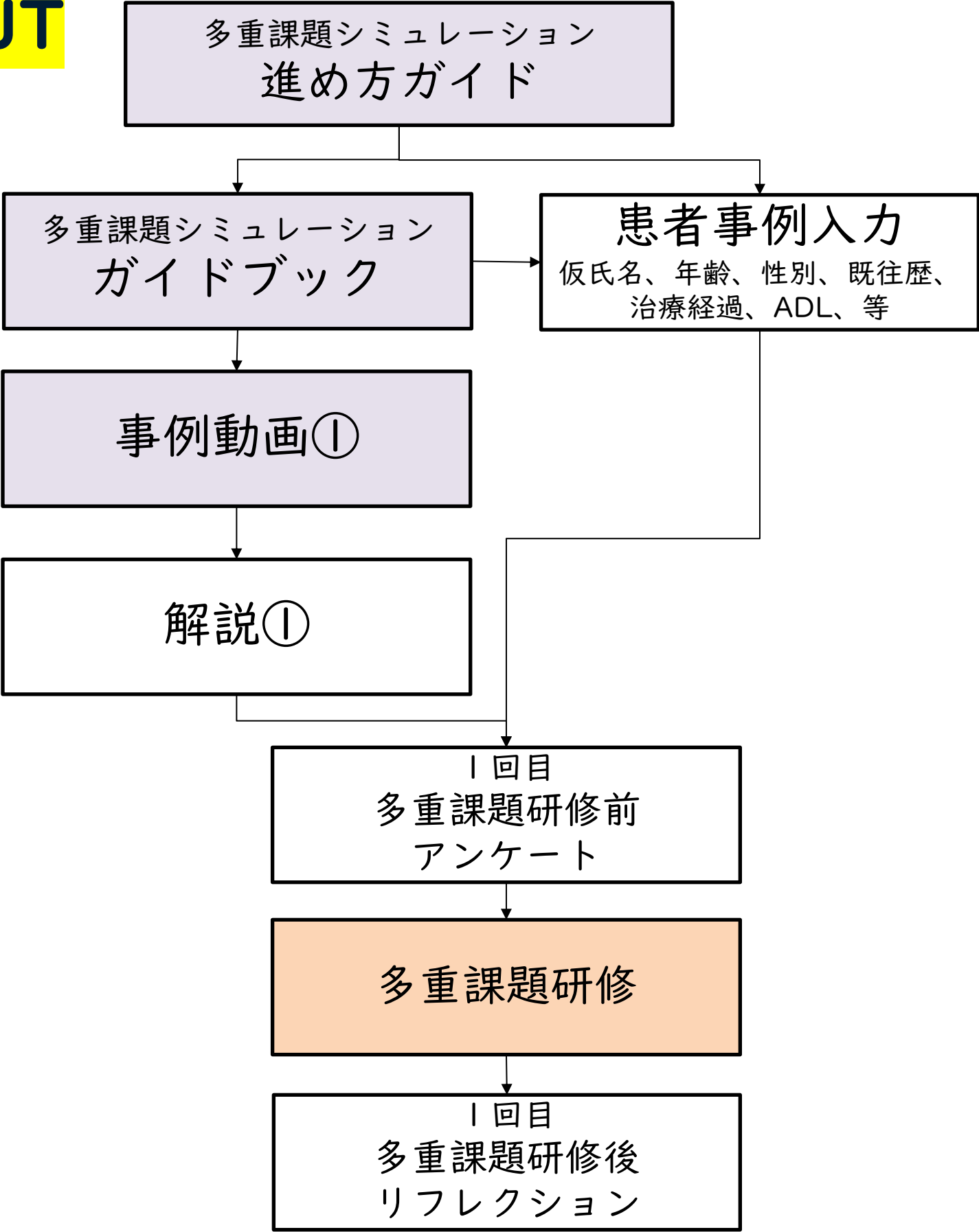
- 看護基礎教育の統合実習・演習
- 臨床現場の新人研修・OJT

「学生や新人が、自ら気づき、判断し、動けるようになるには？」
その問いに応える、明日から使える実践知をお届けします。

多重課題シミュレーション（学校例）



Off-JT



研修後
OJT

部署内で先輩看護師は
新人看護師に
訪室前

リハーサルとして患者の変化の予測を
行う

訪室後

できたことや改善点について、日々の
業務の中で、新人と意識的に関わる



多重課題シミュレーションで利用する教材や支援ツール

ここでは、多重課題対応シミュレーションで利用する教材や支援ツールを紹介・提供します。

多重課題シミュレーションガイドブック



多重課題シミュレーション ガイドブック

— 患者の安全を担保する“できる看護師”への第一歩 —

目次

1. はじめに	2
2. なぜ今、多重課題対応力が求められるのか	2
3. 患者の安全を担保する看護実践の考え方	3
4. 多重課題に対応するためのコツ	4
5. 新人期に意識したい具体的なアクション	7
6. まとめ	7
付録 多重課題対応の自己評価	
I-SBAR-C 報告	
療養環境チェックリスト	

多重課題シミュレーション 進め方ガイド

研修日	
時 間	
場 所	
対 象	

臨床推論/臨床判断

～看護師の思考プロセス～

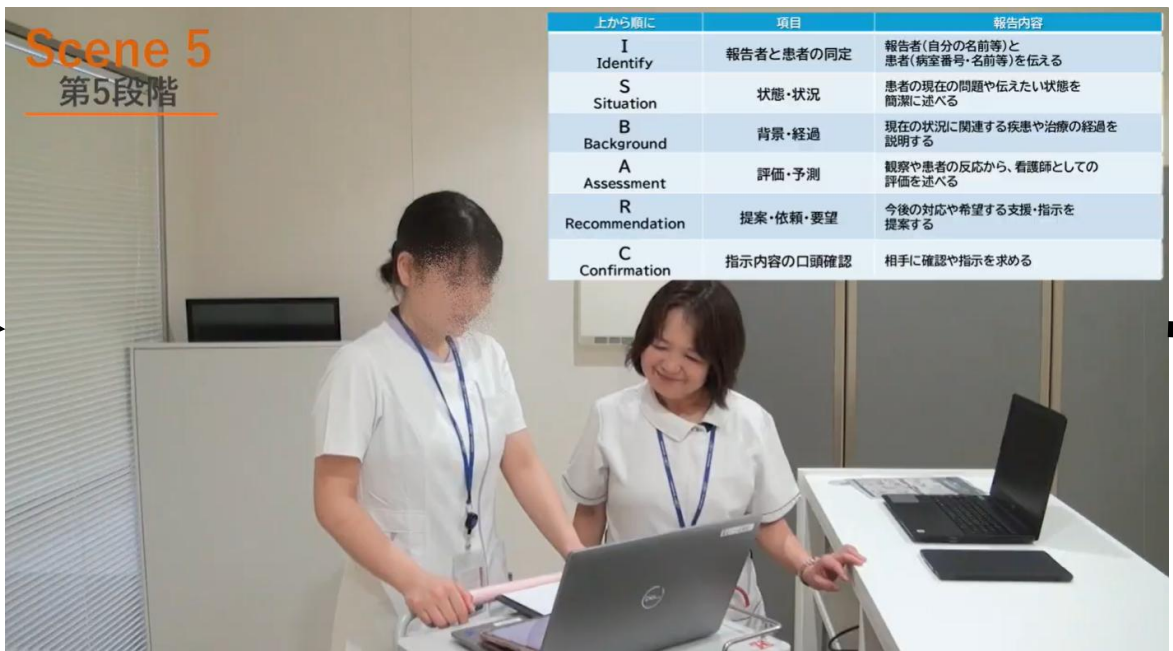
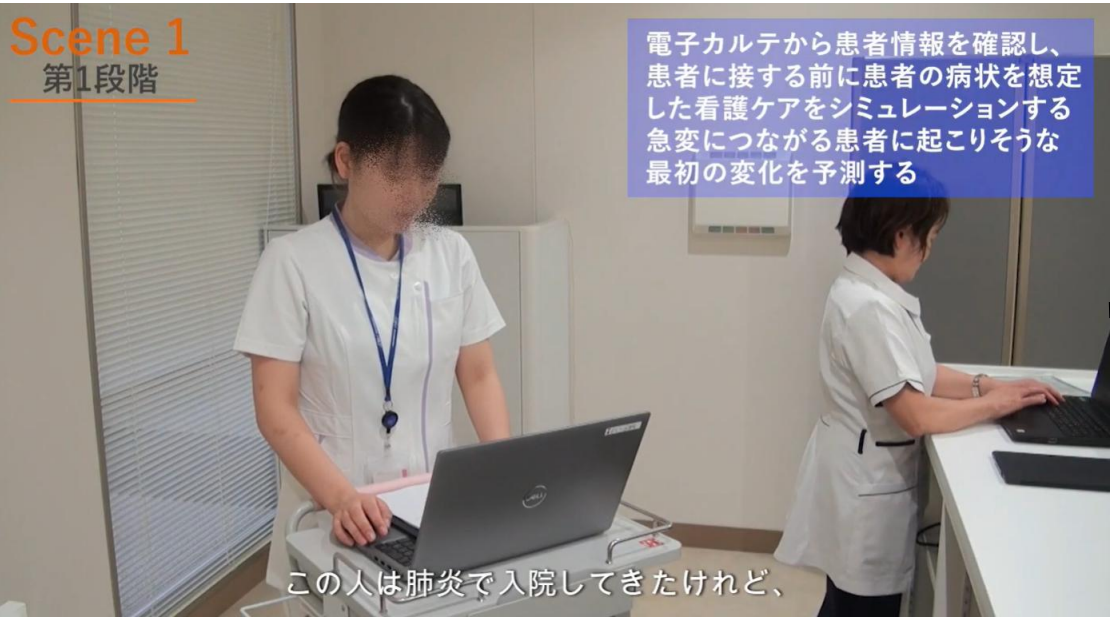
ゴール達成型学習デザイン
GOLDメソッド
Goal-Oriented Learning Design Method

多重課題シミュレーション 進め方ガイド

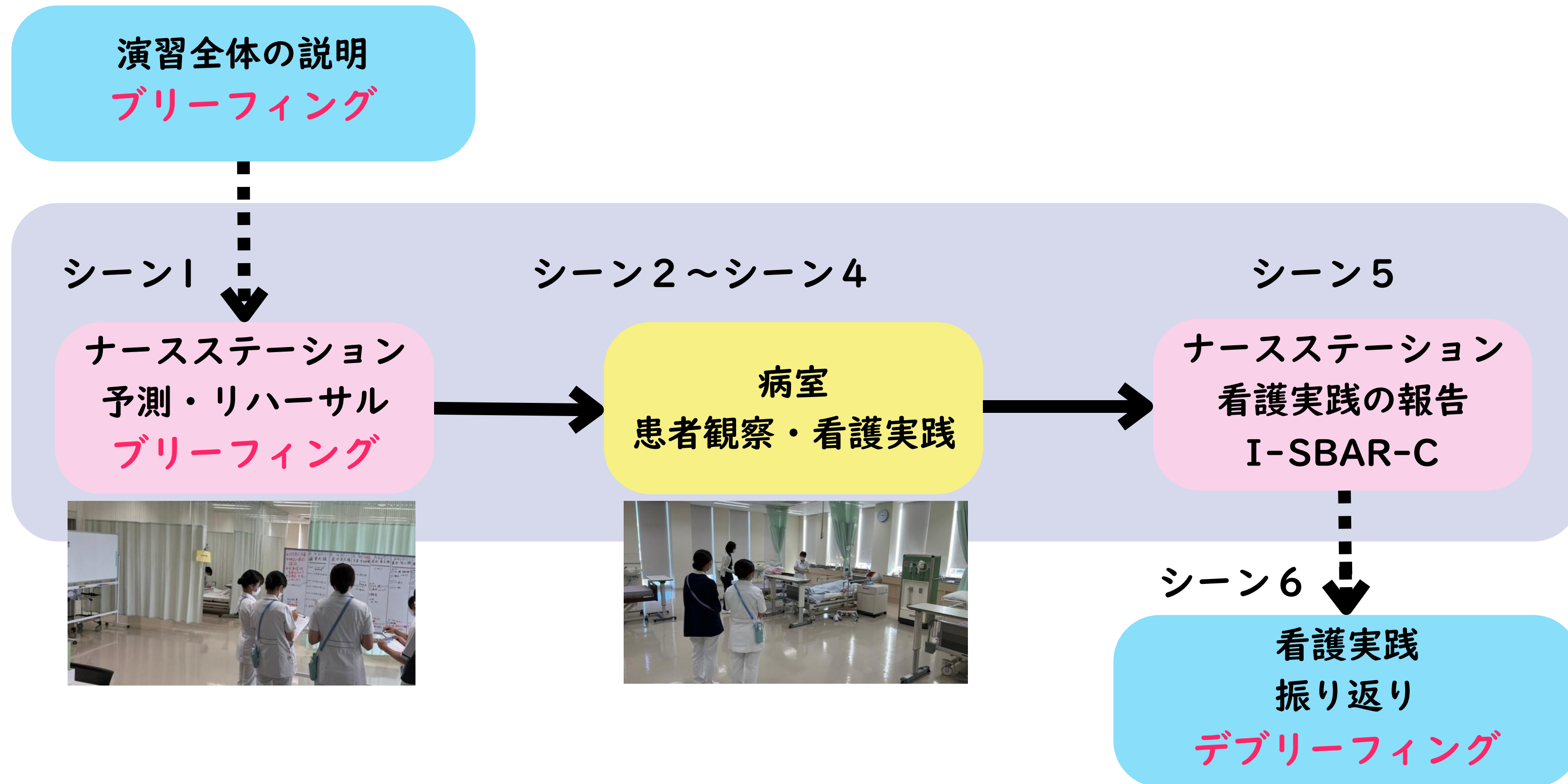
～ホワイトボードの活用の仕方～

新人看護師がベテラン看護師の思考過程・看護実践能力を6シーンに分けて可視化した動画

1. ナースステーションで頭を整える 2. 患者のところに行く（パツと見判断・全体観察） 3. 患者に接する（初期評価）
4. 選択した看護を実践する 5. 看護記録と報告 6. ふりかえり



GOLDメソッドを活用したシミュレーション演習の進め方



岡本華枝:看護基礎教育における看護学生の学びを支える看護教員のあり方,第15回日本医療教授システム学会学術集会
シンポジウム2医療者の心を育てる学びの原理と実践,2023

目次

1. はじまりのストーリー
2. 課題から導いた多重課題シミュレーション
3. 多重課題シミュレーションの構成
4. 実践支援サイトの紹介
5. 明日へのアクション

明日へのアクション

- 多重課題シミュレーションの役割
優先順位判断と複数対応力を安全に練習できる場
- これから
卒前と卒後教育をつなぎ、現場の看護をより良くする

『多重課題×看護教育 実践支援サイト』をご活用ください



多重課題シミュレーション相談・報告会
9月、11月、2月
第2木曜日・19時～20時